

今こそ、コロナ後の楽しい生活を創造しよう！

谷川 大輔(建築学科)



『伊東豊雄 美しい建築に人は集まる/伊東豊雄 著/平凡社 2020』

この本は、建築家「伊東豊雄」が、このコロナ禍において、これからの建築や社会のあり方についてどのように考えているかについて、自らの設計活動を振り返りながら書かれているものです。われわれの社会は近年、様々な災害(地震、津波、豪雨、土砂災害、感染症・・・)に襲われ、その度それまでにない状況に直面し、これまでの方向性の見直しが求められています。またそのような変化や方向性の見直しは、経済や政治のシステムなどでも議論されています。われわれの『近代的な生活』は、変更を求められていると言えます。このような状況下において、日本の建築家のトップランナーは何を考え、どのような未来を描いているかを、この本は示してくれています。巻末には、「いくら外出自粛をするように言われても、昼間のカフェは満席である。・・・建築は人の集まる場所をつくる仕事なのだ」と改めて思わずにいられない。」と、2019年のコロナ禍における伊東氏の直筆の文字で書かれています。みなさんはこの本を読んで、何を感じるでしょうか？ どう思うでしょうか？

伊東氏は、2019年に病(脳梗塞)に倒れ、病床でこれまでの考えを見直したそうです。そして、「これからの建築は、人と自然との関係を、もう一回どう組み直すか。再編するか。そこにかかっていると思います。」(P.92)や、「それを美とか言っていないかわからないけれど、そういう空間を追求していくと、コミュニティとか言っているよりも、説得力があるのではないか。」(P.96)と言った考えに至ったと書いています。もしかすると、これだけを取り出して読んだ人は、「誰も考えるようなことだ」と感じるかもしれません。しかし違うのです。伊東氏は間違いなく日本の建築家のトップランナーであり、そのトップランナーが到達した境地であるとみるべきです。そう言った視線でこの本を読むと、日本の本当の姿や、これからの社会をどのように考えたら良いかといったヒントを読み取ることができると思うのです。

とはいえ、みなさん！建築家「伊東豊雄」をご存知ですか？

建築学科ではその名前を知らない人はいないくらいの超有名な日本の建築家ですが、みなさんご存知でしょうか？ 建築家って誰か知っていますか？と聞くと、たいてい「ガウディ」と答える方が多いように思います。また日本の建築家は誰かご存知ですか？と聞くと、最近では「隈研吾」か「安藤忠雄」と答える方が多いので、「伊東豊雄」はそこまで知られていないかもしれません。「隈研吾」は、2020 東京オリンピックが開催される新国立競技場を設計したことで広く知られ

ていると思いますが、この2回目のコンペティションの最終B案を設計したのが「伊東豊雄」の案でした。間違いなく日本を代表する世界的建築家です。

みなさん！伊東氏設計の『せんだいメディアテーク』をご存知ですか？

こちらにも建築学科では知らない人はいないくらい有名な、21世紀を代表する建築です。しかし、一般的にはそこまで知られていないかもしれません。21世紀を代表する建築というと、金沢にある21世紀美術館(SANNA:妹島和世+西沢立衛設計)の方が有名かもしれません。しかし、その妹島氏は伊東氏の弟子で、もちろん、金沢・21世紀美術館も建築界では革命的ですが、『せんだいメディアテーク』(2001)の方が、建築界に与えた影響は大きかったかもしれません。『せんだいメディアテーク』は、柱が鉄骨でできた網のような構造になっており、それまでの建築とは違う経験したことのないような素晴らしい空間となっています。伊東豊雄の建築思想は、建築界にとっても大きな影響を与えています。

みなさん！『伊東豊雄建築ミュージアム』が愛媛県今治市大三島にあることをご存知ですか？

このような建築界の巨匠の建築ミュージアムが、実は瀬戸内にあります。建築家のミュージアム自体数が少ないのですが、その中でも伊東豊雄建築ミュージアムが、近畿大学広島キャンパスの近くにあります。是非、行ってみてください。また伊東氏は、大三島で自ら新しい建築を実践しています。東京を中心として活躍する伊東氏ですが、瀬戸内で建築のデザインによって人と自然との関係をもう1回組み直す実践を行っているのです。みなさんのいる広島キャンパスの近くです。是非体験してください！

この本を読んで、『伊東豊雄建築ミュージアム』に行って、素晴らしい瀬戸内の環境に触れれば、より身近に、実感をもって未来を創造することができますと思います。是非この本を手にとってみてください！